

WWWブラウザ

Hot Line vol.15

椿浩和

THIS MONTH'S TOP NEWS

インターネットエクスプローラ 5.5 日本語ベータ版公開!

昨年12月に開発者向けにPlatform Previewが公開されてから4か月。ようやくインターネットエクスプローラ(IE) 5.5の最新ベータ日本語版がだれでもダウンロードできるようになった。IE 5.5はIE 5.0の機能を熟成し、さらにいくつかの追加機能が搭載したものだ。気になる最新バージョンの使い勝手はどんなものかを中心にレポートしよう。

見た目の大きな変化はなし

今回公開されたIE 5.5ベータ版は、IE 5.0や5.01と比較すると見かけ上の大きな変化はない。セキュリティ面の強化(暗号強度が128ビットに)やダイナミックHTMLのサポート強化など、バージョンアップがブラウザ内部機能の充実を中心に行われたものだからだ。もちろん、IE 5.0と比較すると安定性は増し、一部の機種種ではウィンドウズ全体の速度も向上している。ウィンドウズ95/98のユーザーならインストールする価値は大きい。目に見える新機能として挙げられるのは、印刷のプレビュー機能。これはマッキントッシュ版のIE 4.5でも採用された機能で、印刷後のイメージをあらかじめ表示してくれるもの。表示したウェブページを印刷するとき、無用なミスを防げる。IE 5.5と同時に電子メールソフトのアウトLOOKエクスプレスも5.5にバージョンアップされたが、今までの5.0や5.01と機能的には大きな変化はない。なお、ウィンドウズ2000を使っているユーザーはアウトLOOKエクスプレス5.5へのバージョンア

IE 5.5 入手先

 www.microsoft.com/windows/ie_intl/ja/ie55/beta-note.htm

ップはできず、インストールできるのはIE 5.5のみとなる。

コンテンツ作りの幅が広がる

IE 5.5へのバージョンアップによる恩恵を最大限に受けられるのは、ウェブコンテンツの制作者だろう。IE 5.5ではコンテンツ制作のバリエーションを広げてくれる各種の機能が正式にサポートされているからだ。ダイナミックHTMLへの対応はさらに強化

された。また、SMIL(Synchronized Multimedia Integration Language)もサポートし、動画再生中にあるタイミングでページ上にボタンを表示するなどストーリーミングデータとHTMLの同期もできる。このほか、日本語の縦書きレイアウト、透明のフレーム、ズームアップ、スクロールバーの色指定などが行えるようになった。コンテンツ作りに利用できる新機能については、「MSDN Online Voices」で実例が紹介されているので参照したい。

MSDN Online Voices

 msdn.microsoft.com/voices/ie55.asp



THIS MONTH'S TOP NEWS 2

機能アップしたウィンドウズメディアプレイヤーバージョン7 ベータ版公開開始!

ウィンドウズ上で各種のマルチメディアコンテンツを再生するアプリケーションがメディアプレイヤーだ。その最新バージョンであるメディアプレイヤー7(英語版)のベータ版が、5月上旬に公開された。今回のバージョンアップでは非常に多くの機能が追加され、従来のものとは大きな違いを見せている。新機能を中心に最新バージョンを紹介しよう。

まったく別物になった メディアプレイヤー

今までのウィンドウズメディアプレイヤーは、十分な機能を搭載したソフトとは言えず、必要最低限の機能を備えた汎用プレイヤーに過ぎなかった。今回のバージョンアップでソフトの内容や使い勝手は大きく変化した。数多くの機能が追加された結果、単なるOSのおまけではなく単独で利用できる高機能アプリケーションとなっている。先行してリリースされた同種のソフト(Real JukeBoxなど)と比較しても遜色はない。今までのバージョンとはまったく別物へと、大きな変貌を遂げているのだ。

魅力的な新機能の数々

最新バージョンには、数多くの新機能が搭載されている。ウィンドウズでマルチメディアを楽しみたい人にとっては、どれもが魅力的なものだ。まず、インターネットと連携する新機能が次の2つだ。

Media Guide との連携

インターネット上のマルチメディアコンテンツを楽しむ機能が「Media Guide」。ボタンをクリックすると自動的にインターネットに接続され、コンテンツガイドのある「Media Guide.com」にアクセスする。この中から自分の見たいコンテンツを選ぶと、自動的にアクセスが行われ、ビデオ映像や音楽を楽しめるようになっている。用意されたコンテンツは多彩。公開直後にはアカデミー賞関連のコンテンツや、映画「JAWS」関連のコンテンツなどがアップさ

メディアプレイヤー7入手先

 www.microsoft.com/windows/windowsmedia/en/default.asp

れている。また、このガイドから音楽データを提供するサイトやラジオ局などにもアクセスできるようになっている。もちろん、お気に入りのコンテンツがすでにあれば、直接指定することもできる。自分の利用する通信環境に合わせてデータの転送レートを決めるだけで、使い方も簡単だ。

Radio Tuner 機能

インターネット上で放送されている音声番組(ラジオ)を聴くための機能が「Radio Tuner」だ。ボタンをクリックすると自動的にインターネットに接続され、コンテンツの一覧が表示される。その中から自分の聴きたい番組を選び、クリックすればOKだ。また、ジャンルで番組を検索したり、お気に入りのチャンネルだけを登録(プリセット)したりできる。機能自体は、IE 5以降に搭載されたラジオオーバー機能と基本的には同一のもの。しかし、いちいちブラウザを起動してラジオオーバーを出し、サイトにアクセスして……という手間を省き、すぐにラジオを聴き始められるところが便利だ。



Media Guide : ビデオ、音楽など多彩なコンテンツが用意されている。



Radio Tuner : 自分のお気に入りだけをあらかじめ登録しておくこともできる。

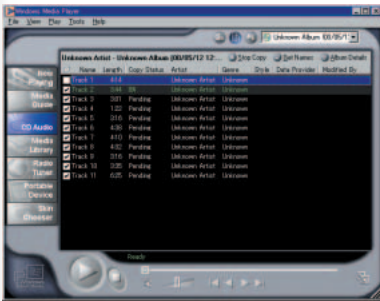
ほかのメディアとの連携も密に

メディアプレイヤー7は、インターネット上だけでなく、さまざまなコンテンツを再生する機能も充実している。

音楽CD、携帯機器との連携

メディアプレイヤー7では、音楽CDからハードディスクへも録音できるようになった。フォーマットはMP3ではなく、WMA (Windows Media Audio)。録音時に著作権情報も追加できる。

WMA形式ということで、現在市場で流通しているMP3用携帯プレイヤーとの連携はできない。しかし、WMA形式に対応した携帯プレイヤーも登場し始めている。携帯機器との連携のしやすさについては、今後の推移を注目したいところだ。

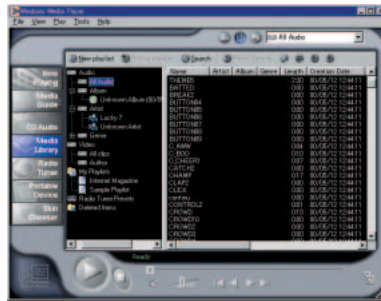


CD Audio : 音楽CDからHDDへの録音時には、タイトルなどのデータも取り込まれる。

データベース機能も充実

メディアプレイヤー7には「Media Library」と名付けられたデータベース機能が追加された。これはインターネット、音楽CD、ハードディスク内にあるすべてのマルチメディアコンテンツをデータベース化して再生する機能だ。

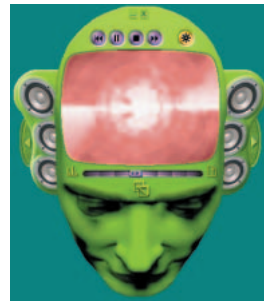
最初にメディアプレイヤーを起動すると、ハードディスク上にあるすべてのマルチメディアコンテンツを自動検索して結果を一覧表示する。MP3のID3タグにも対応しているし、音楽CDの録音時にはタイトルや曲名をインターネットから自動的に取り込んでくれる。ただし、音楽CDのデータ形式はCDDDBではなく独自のもので、登録数がやや少ない。リストに名前を付け、複数のライブラリーも作成できるので、さまざまな方法でデータベースを活用できる。



Media Library : すべてのマルチメディアコンテンツを登録できる。

そのほかの面白機能

このほかにも、メディアプレイヤー7には面白い機能が搭載されている。外見もいろいろ楽しめるようになっているのだ。全体の外見を変更できるのが「Skin Chooser」機能。通常はメニュー項目などを含んだ状態（フルモード）で利用するが、コンテンツ側からアプリケーションを開くとプレイヤー部分だけが表示された簡易モードになる。このときの表示方法をSkinと呼び、ユーザーの好みでプレイヤーの外見を変更できる。最初から8つのSkinが用意されているほか、サイトから別のSkinもダウンロードできる。もう1つが「Visualizations」。音楽によって、画面上の紋様が変化する機能。耳だけでなく目でもコンテンツを楽しむ。



SkinとVisualizations : 外観を変更して目からも楽しめる。

★★★コングレ「TOPICS!」★★★

IEにクッキー関連のバグ

Peacefire.orgは、ウィンドウズ版IEのすべてのバージョンで、無関係なサイトがユーザーのクッキーを読むことができるというセキュリティホールを報告した。マッキントッシュ版には影響はない。悪意のあるサイトがクッキーを取得する際のURLを工夫すれば、Yahoo!やHotmail用のクッキー情報を取得できる。クッキーを利用してユーザー認証を行っているポータルサイトやウェブメールの利用者が個人情報を盗まれる恐れがある。マイクロソフトのサイトには、この件に関する情報はまだ掲載されていない(5月17日現在)。

peacefire.org/security/iecookies/

Image Sourceリダイレクト問題の修正プログラム

「Image Sourceリダイレクト問題」を修正するプログラムがマイクロソフトから公開された。これは、IE 4.0以降でローカルのファイルを表示後に、タグにリンクされたJavaScriptを含むサイトにアクセスしたときに生じる問題。サーバーから直前にユーザーが開いたローカルファイルを読み取ることが可能になるという。解決には「Mshtml.dll」を最新版に置き換える必要がある。解決後に新しい問題が生じることも確認されており、マイクロソフトでは原因の特定と解決策を検討している。

www.microsoft.com/windows/ie_intl/ja/security/

コミュニケーター 4.7.2 以前にセキュリティホール

ネットスケープは、コミュニケーター4.72以前のバージョンにセキュリティホールがあることを発表した。同社のサイトでは、ユーザーに4.73以降へのバージョンアップを求めている。セキュリティホールが見つかったのは、ブックマークの部分。ブックマークによってリンクされたサイトから、ユーザーの個人情報が読み取られてしまう危険性があるという。ネットスケープでは、4.73以降のバージョンであれば問題が解決されていると発表している。

www.netscape.com/security/



[インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

株式会社インプレスR&D

All-in-One INTERNET magazine 編集部

im-info@impress.co.jp